

知財教育分科会セッション

◆ 知財教育とアクティブ・ラーニング ◆

【趣旨】

アクティブ・ラーニングとは、文部科学省の用語集*では、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。」となっている。ご存知のように近年、小学校から大学教育まで全ての教育段階における教育改革で、この「アクティブ・ラーニング」という言葉が、キーワードとなっている。これは、学習の深化と共に、教育課題となっている主体性の育成をはかる手段としての有効性が示されているからであると思われる

一方、知財教育とは、単に知的財産関連法を教授するのみではなく、創意工夫することでの知財の創出から、保護、活用までの理解・マインド醸成を主眼としている。これらは、まさしく「教員による一方向的な講義形式の教育」では難しく、基本的に「学修者の能動的な学修への参加」を必要することとなる。実際、三木*が、「専門高校生および高等専門学校生の知的財産学習における学習者中心学習法の効果的活用」として報告している。しかしながら、「知財教育」そのものは、小学校から大学、大学院まで各段階で種々の形態で行われているものの、広がりや点ではまだまだである。（*日本知財学会誌 Vol. 12 No. 1 p. 22-28 (2015-10-20)）

そこで今回、「アクティブ・ラーニング」の視点から、改めて知財教育を見ることで、知財教育におけるアクティブ・ラーニングの効果、また逆に、アクティブ・ラーニングの狙いの一つである主体性の育成における知財教育の効果について、現状の問題点とともに明らかにし、知財教育の普及に資することを目的に、本セッションを行うこととした。

パネリスト、ファシリテーターとともに、優れた知財教育の実践を行われた方々である。具体的議論が活発に行われることが期待される。

【パネリスト】

木村友久（山口大学国際総合科学部 教授）

本江哲行（独立行政法人 国立高等専門学校機構本部事務局学生指導支援室室長 教授）

黒川康生（山口県立防府商工高等学校 教諭）

<モデレーター>

村松浩幸（信州大学、附属次世代型学び研究開発センター長 教授）

【内容】

- 1) モデレーターの村松教授より、「アクティブ・ラーニング」について導入
- 2) 木村教授より、山口大学における知財教育の実践例とその効果測定
- 3) 本江室長により、国立高等専門学校における実践報告
- 4) 黒川教諭より 山口県立防府商工高等学校での実践報告
- 5) モデレーターからのコメント
- 6) モデレーターの司会でフロアーとの質疑応答

知財教育分科会セッション

◆ 知財教育とアクティブ・ラーニング ◆

【パネリスト・モデレーター略歴】

木村友久 (きむら ともひさ) 山口大学国際総合科学部 教授

昭和60年 都城工業高等専門学校教授

平成10年 工学教育賞(日本工学教育協会)

平成14年 山口大学 メディア基盤センター教授

平成17年 山口大学 大学院技術経営研究科教授

平成20年 特許庁長官賞(産業財産権制度関係功労者表彰)

平成27年～ 現職

本江哲行 (ほんごう てつゆき) 独立行政法人国立高等専門学校機構本部事務局学生指導支援室室長教育研究調査室(併任) 教授

平成18年 国立富山高等専門学校現代GP(知的財産関連)富山高専実施責任者(3年間)

平成21年 国立富山高等専門学校教育技術センター長 知財教育、PBLの推進

平成22年 国立富山高等専門学校 校長補佐(教務担当)

平成27年 国立高等専門学校機構 教育研究調査室 教育改革と質保証担当 教授

平成28年～ 現職

黒川康生 (くろかわ やすお) 山口県立防府商工高等学校 教諭

平成16年～ 山口県立防府商工高等学校 教諭

平成23年～ 防府商工会議所防府ブランド知財戦略センター委員

平成25年 平成25年度文部科学大臣優秀教員表彰

平成26年 山口県観光連盟功労者表彰

村松浩幸 (むらまつ ひろゆき) 信州大学, 附属次世代型学び研究開発センター長 教授

平成16年 三重大学教育学部助教授

平成19年 信州大学教育学部准教授

平成24年～ 信州大学教育学部教授

平成24年 TEPIA 知的財産事業日本知財学会特別賞

平成27年 文部科学大臣科学技術分野表彰

平成28年～ 現職

文部科学省用語集より

【アクティブ・ラーニング】教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

このアクティブ・ラーニングの手法は、企業における知財研修等でも活用できるものです。知財教育に関わり、関心のある方、またアクティブ・ラーニングに関心のある教員の方々の参加をお待ちしています。